



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 2021年9月20日 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 毎月1回20日発行/一部20円 (組合員の購読料は、組合費に含む)
 第727号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

職場討議資料を活用しよう! 4つの視点で 総合労働条件を改善しよう!!

- 職場環境改善
- 労働条件の向上
- 施策の検証・改善
- 福利厚生充実

JR東労組は、夏季手当のたたかいにおいて、職場の声をもとに、職場と交渉団が一体となってたたかいをつくり出すことができました。そして、定期昇給がカットされた上に、夏季手当2.0ヶ月という厳しい回答に対して、生活が成り立つのか、赤字・コロナ禍での私たちの努力に対する評価はその程度なのかなどの議論を通じて、労働者の立場や企業の姿勢などについて認識を深めてきました。

私たちが、赤字・コロナ禍でも黒字化を目指し、知恵を出し合い雇用と組織を守ろうと「JR東労組緊急提言」を発売し取り組んでいます。ある分会では、「車内消毒を積極的にやっていこう」という内容を分会掲示板に掲出したところ、勤務時間中の労働組合活動ではないかと会社から言われました。また、ある職場では社員7名が相次いでコロナ陽性になっているにもかかわらず感染は職場内ではないとするなど、コロナ禍の厳しい環境下での労働を余儀なくされているにも関わらず、社員に寄り添うどころか、社員の声を聞かず、管理強化で職場の雰囲気悪化させている始末です。そして、職場では未だに不当労働行為と捉えられるような事象やハラスメントが止まりません。

また、変革のスピードアップの名の下に施策が矢継ぎ早に進められようとしています。その施策について一方的にタブレット配信がされ、社員説明会での説明もままならず、説明の前にプレス発表で

全組合員の職場からのたたかいで、働きやすい職場をつくり出そう!

今、職場では何が起きていますか?

知るなど、社員が置いてけぼりにされているかのような状況が見られ、施策が職場に丸投げではないかという声が出ています。あわせて、お客さまに対しての周知期間も短くなり迷惑をかけているのではないかとこの声もあります。

赤字・コロナ禍で厳しいから、会社は何をしてもいいという気持ちはありません。私たち自身も、赤字・コロナ禍だから仕方ないなんていうのは、騙されてしまいます。厳しい時だからこそ、現実を掴み、仲間を思いやり、安心して働ける環境のもとで協力しあって困難を乗り越えていくべきではないでしょうか。

職場と仕事と生活を守っていきましょう!

JR東労組は8月9日に『安全・命を最大の価値基準に「職場と仕事と生活」を守るため仲間と共に未来を切り拓く8・9フォーラム』を開催しました。社会情勢を含めて現実を捉え返し、職場現実を踏まえた上で、私たち自身の手で職場の将来を描きつくり出していくこと、そのためには、働きやすい職場づくりを阻害するいかなるものとも対峙していくことを意思統一しました。

私たちは、生活をしていくためには働いて賃金を得なければなりません。その働く場を働きやすくすることは、働く者として当然のことです。しかし、一人の力で変えていくには限界があります。だから仲間と団結していくことが重要であり、労働組合が必要なのです。

4つの視点で一人ひとりの声を出そう!

働きやすい職場づくりに向けて、JR東労組は「総合労働条件改善のたたかい」を行っていきま

組織の要求へと高めて、改善を実現するために取り組んでいきます。

職場討議資料を作成しました。職場での議論をしながら「総合労働条件改善のたたかい」の取り組みをつくり出していきます。全組合員で働きやすい職場を目指して声を上げましょう!

2021年9月

総合労働条件改善のたたかい

職場環境改善 | 施策の検証・改善
 労働条件の向上 | 福利厚生充実

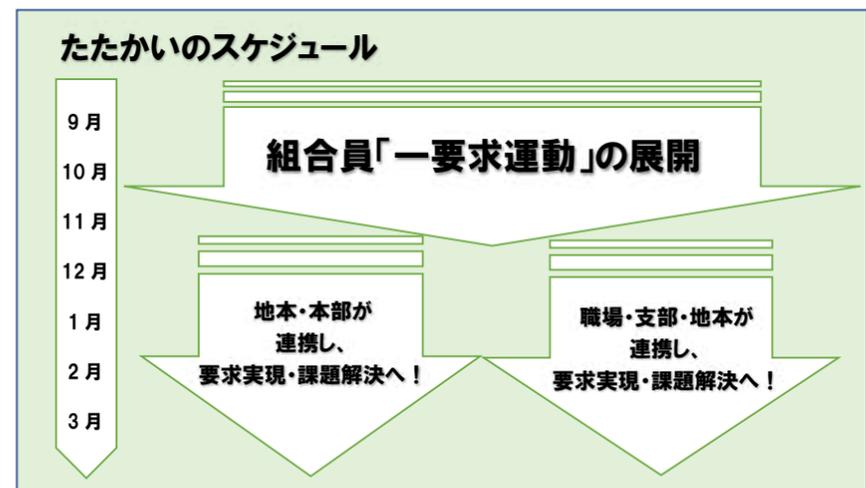
要求を集約し、改善を実現しよう!

JR東労組は、2020年2月に「新生JR東労組運動宣言」を掲げて組合員と共に運動をつくり出し、さらには赤字・コロナ禍を乗り越えるため「雇用と職場を守るためのJR東労組緊急提言」を打ち出し、職場から取り組みを積み上げてきました。そして、8月9日に『安全・命を最大の価値基準に「職場と仕事と生活」を守るため仲間と共に未来を切り拓く8・9フォーラム』を開催しました。

フォーラムでは、赤字・コロナ禍を乗り越えるための議論や社会情勢を踏まえ、「職場と仕事と生活を守る」ために、部会と本部から課題提起・提言を行い、職場の現実を討議しました。その中で見えたのは、私たちは「変革2027」に基づく矢継ぎ早に打ち出される施策等に対し、職場現実を踏まえ働きやすい職場をつくり出すこと、安全で働きやすい職場からはかけ離れていると言わざるを得ない現実が生じています。特に、命を脅かす事故・事象や、後を絶たないハラスメント、キャリアプランが尊重されない現実など、職場では不安や不満、手帳などが渦巻いています。そして、赤字を理由に21期以降は定期昇給カットや年末手当削減が行われ、それを社友会が容認するような情報が出されています。この会社姿勢に向き合えば、年末手当も削減され、22期以降も定期昇給がカットされる事態になりかねません。「仕方ない」と諦めることなく声を上げて、労働条件の維持・向上の実現を目指しましょう!

一方で、職場には身近な懸念が山積みしています。情勢は厳しいものの、堂々と「声」を上げられるのが労働組合の強みです。全組合員参加の運動により、「職場環境改善」「施策検証・改善」「労働条件の向上」「福利厚生充実」など職場要求集約と要求実現に向けた取り組みの強化を図り、「総合労働条件改善」の取り組みをつくり出していきます!そして、労働組合の強さは「団結力」です。JR東労組の存在意義を捉え直し、結束を呼びかけ、組織の強化・拡大を実現しましょう!

東日本旅客鉄道労働組合(JR東労組)



赤ペン

先月、横浜市長選挙の投票率が49.05%で、前回37.21%を上回った!新型コロナウイルス感染症拡大という緊急事態の中、ワクチン接種や医療体制を含め、行政サービスの内容や質の差を実感することが多くなった。自分達が暮らす地域の行政が信頼でき、安心できるサービスを提供してもらえれば、どうかということが、より重要な意味を持つようになった!今回の選挙もそこが大きな争点の一つとなったが、この投票率をどう評価したらいいだろうか!コロナ禍での市長選は、有権者の「この一票で変わってくれ!」という強い願いを感じた選挙だった。そして、それは少くも国政にも影響を与えた!「たった一票では、何も変わらない」という雰囲気を変えようという限り、世の中は変わっていく。1票に対する気持ちの重みが変われば、政治はきっと変わっていく。有権者のために働かない政治家はいらない!という声を、もっと有権者が示していかなければならない!▼横浜市長選挙の投票率49.05%という数字は、半数が投票しなかったという意味でもある。間もなく衆院選が行われる。無関心でも無関係ではいけない。(U・O)